

岡山県立博物館だより

2005.3.22

63
号

デジタルミュージアム完成

岡山県立博物館では、平成17年4月からホームページ上でデジタルミュージアムによる情報の発信をおこないます。ここでは、デジタルミュージアムの目的と機能を簡単に紹介します。

デジタルミュージアムの目的

現在、岡山県立博物館では、考古・美術工芸・文書・民俗の4つの分野で約13,000件、22,000点の資料を保管しています。しかし、展示スペースの制約から、常設展などで公開できる資料は限られたものとなっています。また、絵画や古文書などの資料は、資料保存の観点から年間の展示日数が限られているため、博物館に足を運べばいつでも目当ての資料を観覧できるというわけではありません。現在、国内の博物館では館蔵資料の画像や文字情報をインターネットを活用して外部に発信する動きが広がっています。岡山県立博物館でも、館蔵資料に関する情報に加えて、岡山県の歴史や文化に関する情報を積極的に発信するために、ホームページ上に新しくデジタルミュージアムを開設しました。

デジタルミュージアムの機能

デジタルミュージアムには3つの機能があります。

一つめは「おすすめ 名品150選」です。このコーナーでは、館蔵の名品を詳細な解説と画像で楽しむことができます。

二つめは館蔵資料の検索機能です。検索機能には「ことば検索」「テーマ検索」「分野別検索」の3種類があります。「ことば検索」ではキーワードや時代を入力して、資料の検索をおこなうことができます。「テーマ検索」では、「備前焼」とか「明かりをとむす」といったテーマのボタンを押すと、該当する資料の一覧画面が表示されます。「分野別検索」は、興味のある分野を考古・美術

工芸・文書・民俗の中から選び、時代やキーワードで見た資料を絞り込むことができます。

三つめは、学習支援機能です。「岡山の歴史を学ぶ」というテーマのもとに「歴史クイズ」と「読み物」を用意しています。「歴史クイズ」ではクイズを楽しみながら岡山の歴史を学ぶことができます。「読み物」は「備前焼の歴史」など、これまで県立博物館が特別展などを通じて蓄積した情報をまとめたものです。

ぜひ、岡山県立博物館デジタルミュージアムを訪ねてみてください。当館ホームページからアクセスできます。

トップ画面



検索画面

<http://www.pref.okayama.jp/kyoiku/kenhaku/hakubu.htm>
(主査 貝原靖浩)

平成16年度特別展を終えて

岡山・兵庫・広島三県合同企画 平成16年9月3日(金)～10月3日(日)

津々浦々をめぐる ～中世瀬戸内の流通と交流～

今年度の特別展は、岡山・兵庫・広島の三県の県立博物館が協力して、合同企画展の形で行いました。

今回の特別展の特徴は、文書資料と考古資料を組み合わせ、中世瀬戸内の流通を再現してるところにあります。文書資料については、東寺百合文書や東大寺文書など国宝に指定された文書資料によって兵庫津や新見荘をめぐる流通や交流の様子をある程度描くことができましたと思います。

また、500点を超える考古資料は中世の港町のたたくまいを偲ばせるだけの迫力をもっていたものと思います。

また、9月12日には国立歴史民俗博物館名誉教授吉岡康暢氏に「焼きものが語る中世瀬戸内の流通」というテーマでの御講演をいただきました。先生の蓄積された陶磁器や流通に関する知識を、非常に分かり易い口調でお話しいただき、特別展の担

当者自身新たな発見をいくつもすることができました。

会期中には、岡山県立朝日高校の生徒をはじめ、岡山操山高校の生徒、岡山後楽館高校の生徒に来館していただきました。特に操山高校の生徒には、展示解説の補助資料の作成をボランティアで行っていただいたり、見学前に学芸員による日本史の出前授業を行うなど、博物館と学校教育との連携事業として、新しい形を作り出せたのではないかと思います。

7月～11月の間、兵庫・岡山・広島順に開催しましたが、各会場でそれぞれ特色のある展示が行えたものと考えます。瀬戸内に面する三県の県立博物館による合同企画は、単館では実現しえない厚みのある展示を可能にしたといえるのではないのでしょうか。

(主査 貝原靖浩)

平成16年11月19日(金)～12月19日(日)

「日本のわざと美」展 ～重要無形文化財とそれを支える人々～

「人間国宝」、よく耳にする言葉ですが、これは通称で、正しくは「重要無形文化財保持者」といいます。日本の風土のなかで育まれた工芸技術や芸能といった無形の文化財である「わざ」を、極めて高い水準で体現する人々をさします。重要無形文化財保持者の指定は昭和30年から始まり、工芸技術の分野では、物故者も含めると今年度までに、延べ148人14団体が指定されています。岡山県からも備前焼で5人、木工芸で1人の「人間国宝」が生まれています。

この展示会は、全ての「人間国宝」の、しかも代表的な作品を一堂に集めたもので、まさに「日本のわざと美」を堪能していただけるものでした。また、会場では、これらの「わざ」の保存に欠くことのできない材料や用具の生産・製作技術である「選定保存技術」についても御紹介しました。たとえば、優れた染織品も、上質の麻や藍といった原料、精巧な織機なくしては実現しません。このような人間国宝の技をささえる人々の存在、またその保存・伝承の難しさに改めて目を向けてい



伊勢崎淳氏のギャラリートーク

ただけたようです。

会期中に開催した、岐阜県現代陶芸美術館長榎本徹氏による講演会「近代茶陶の展開」、重要無形文化財久留米絣技術保持者会・伊勢型紙技術保存会による製作実演、今年度あらたに重要無形文化財保持者に認定された備前焼作家伊勢崎淳氏によるギャラリートークなどのイベントは、いずれも盛況で、皆様に楽しんでいただけたようです。

(学芸員 中田利枝子)

資料紹介

吉備津彦神社所蔵 門神像頭部内側墨書銘について

昨年秋に岡山市教育委員会根木修氏の案内で長野県から「尊賀上人の事蹟を訪ねる」一団が来館されました。尊賀は慶長年間(1596～1615)を中心に真如院(岡山市川入)に住み、備中国・備前国の両一宮である吉備津神社(岡山市吉備津)・吉備津彦神社(岡山市一宮)の別当寺の長をつとめた僧です。吉備津神社本宮社・本地堂・御釜殿、吉備津彦神社本殿などを造立して両宮境内の再興に努めました。建物の棟札や仏神像の造立銘の記入にあたって尊賀は自分の名にしばしば「信州(信濃)之住」「生国信州」を付しています。信濃国に生まれはじめ神光寺清浄院に住んでいた(吉備津神社文書)とあります。この尊賀ゆかりの資料を訪ね、その名前が記された本館所蔵の阿弥陀如来坐像、吉備津彦神社所蔵の門神頭部の2点の資料を閲覧に来館されたの

でした。小さく記した名前が、400年の歳月を経て故郷の人々を引きつける、文化財の持つ不思議な力を感じました。吉備津彦神社門神頭部については、これまでその銘文の紹介がありませんでしたので、ここにその墨書銘を紹介します。



(学芸員 中田利枝子)

研究
ノート

失われる年中行事 ～正月のキリゾメ～

現在、日本の伝統がはぐくんだ年中行事は急速に失われつつあります。岡山県立博物館ではそれら年中行事のうち、正月行事について調査し、平成18年1月に企画展として展示します。ここではその調査記録のほんの一部を紹介いたします。



完成したキリゾメを持つ森江さん

もうすでに失われた正月行事の一つに、キリゾメがあります。キリゾメとは、正月元日、または2日に一家の主人(ほと

んどが男)が恵方の方角の山に入り、マキノキや樫などを伐ってきます。これを下の方の枝は落とし、先の部分に縄を巻き付けてそのまま縄で木を下方方向に引っ張ってくりつけます。ちょうど「？」の先のような格好になりますが、これは稲穂が垂れ下がった姿を表しているといわれています。そのキリゾメを家の男の数だけ作り、春のワサ植えを行うその日の朝のご飯を炊くときにくべるのです。

現在、キリゾメを行っている地域はほとんどなく、多くは戦後に消えたといえます。写真は、キリゾメを覚えていらっしゃる旧富村の森江俊文氏に再現してもらったものです。年中行事の消滅は世の中の必然かもしれませんが、正月に稲穂の形を象徴したものを男の数だけ作り田植えのときに使うそんなキリゾメという行事があったこと、そしてキリゾメに込められた深い意味に思いをはせるのも日本人として大切なことではないでしょうか。

(学芸員 木下浩)

学校との連携

博物館では教育普及活動の一環として、学校との連携に力をいれています。

「出前講座」は、平成14年度から実施していますが、年々実施校が増え、本年度は小学校で延べ14回、中学校で4回、高等学校では2回の講座を実施しました。



この「出前講座」は学芸員が実物資料を学校へ持ち込んで授業をするもので、「地域の歴史を学ぶ」や「むかしの生活を探る」といったテーマが好評でした。教科書には出てこない、その地域独自の歴史の話や、その地域にある文化財の説明、また、実際にその地域の史跡を歩いたり、石器や土器から天秤棒まで、むかしの道具に触れてもらうなど、いろいろな形で児童・生徒の学習を手助けしてきました。

また、実際の江戸時代の鎧を着てみる講座は、当初予定していた小学校以外に中学校でも実施しました。鎧を着て、鉄砲を構える姿に友達から歓声があがるなど、授業もたいへん盛り上がり、生徒の歴史への関心も高まったものと思います。私たち学芸員にとっても、あらためて実物資料の持つ「力」を感じる瞬間でもありました。

県立高等学校の授業や総合的な学習との連携も進みました。「出前講座」で事前学習を行った上で、展示会を観覧したり、岡山市内の史跡めぐりの途中博物館で学習を深めるなど、博物館展示を利用した学習が行われました。生徒の皆さんから「あっ、これ、教科書に出とった。」とか、「こんなの初めて見た」などの声が上がりました。教室の授業とはまた違った新しい発見があったものと思います。

(学芸員 浅野慎太郎)

晴れの国岡山国体における「スポーツ芸術」

国体におけるスポーツ芸術はオリンピックのスポーツ芸術の考え方を取り入れ、昭和30年の第10回神奈川国体で初めて公開競技として実施されています。国体の開催時にあわせて、芸術作品の展示や演劇の上演などを行い、開催都道府県の芸術・文化を広く紹介することに主眼が置かれています。

本館も『晴れの国おかやま』の文化を多くの人たちに理解していただくため、夏季大会(9月10日～13日)にあわせて、国体メイン会場などの建設に伴う発掘調査により発見された原始・古代の津島遺跡を中心にした企画展『発掘・発見・そして未来へ - 津島遺跡からのメッセージ -』(会期9月1日～10月2日)を開催します。

また、秋季大会(10月22日～27日)にあわせて、日本の歴史に重要な位置を占めた岡山県ゆかりの国宝・重要文化財、県指定重要文化財の指定物件などにスポットをあてた特別展『岡山の名宝』(会期10月7日～11月6日)を開催します。

この機会に県民の皆さんを始め、全国の人々に岡山の文化とその歴史について理解を深めていただきたいと思います。(副館長 高畑知功)

お知らせ

平成17年度の特別展・企画展(予定)

平成17年9月1日(木)～10月2日(日)

企画展「発掘・発見・そして未来へ
- 津島遺跡からのメッセージ -」

平成17年10月7日(金)～11月6日(日)

特別展「岡山の名宝」

平成18年1月5日(木)～1月29日(日)

企画展「岡山の年中行事 正月～春編」

平成18年2月3日(金)～3月5日(日)

特別展「吉備の渡来文化 - 渡り来た人々と文化 -」

展示解説のお知らせ

岡山県立博物館では、毎月第2・第4土曜日の午後2時から3時まで、本館の学芸員による展示解説を行っています。お気軽に御参加ください。

岡山県立博物館だより 第63号

発行日/平成17年3月22日

発行者/岡山県立博物館 館長 能登原 巧

〒703-8257 岡山市後楽園1-5

TEL:086-272-1149 FAX:086-272-1150

URL <http://www.pref.okayama.jp/kyoiku/kenhaku/hakubu.htm>

